

秋田の玄関口から健康・スポーツ文化を発信する 「JR秋田ゲートアリーナ計画(仮称)」を進めます！

JR秋田支社は、秋田県・秋田市と一体となり、地域と連携して取組む「ノーザンステーションゲート秋田」として、次の20年に向けた秋田の活性化を目指した取組みを進めています。この度、秋田駅東口に、「ノーザンステーションゲート秋田」の新たな顔となる「JR秋田ゲートアリーナ計画(仮称)」を始動します。秋田駅東口は「秋田プラチナタウン研究会」の一環として、健康・スポーツを通じた、3世代が元気に暮らせるプラチナタウンの検討を進めており、2018年春、城東スポーツ整形クリニック(仮称)の開業を予定しています。今回、クリニックに隣接する、バスケットボールを中心とした体育館と子育て支援施設を一体的に整備し、プラチナタウンを推進するとともに、秋田駅周辺全体の秋田版CCRCを形成していきます。

「JR秋田ゲートアリーナ計画(仮称)」は、閉鎖的な空間になりがちな体育館を都市に開かれた形で開放的に整備し、新幹線や沿道を客席と見立てた今までにないアリーナとします。本施設はJR東日本秋田バスケットボール部ペッカーズの活動拠点となり、また、昨年からはBリーグに参戦している秋田ノーザンハピネッツと連携し、プロチームの練習拠点としての利用も予定しており、秋田の玄関口からバスケットボールを発信し、気軽に選手たちと会える環境づくりを行います。さらに駅前のアクセスの良さを活かし、スポーツ大会等の開催など地域利用を促進し、県内外の来訪者を増やします。

今後、秋田拠点センターアルヴェや周辺施設と一体となり、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画、秋田版CCRC計画と連動しながら、健康・スポーツを通じた玄関口・秋田の活性化につなげていきます。

1 計画概要

- 名称：JR秋田ゲートアリーナ(仮称)
- 計画地：秋田駅東口(現秋田駅こまち駐車場の一部)
- 土地面積：約5,900㎡
- 延床面積：約3,500㎡
- 構造規模：RC造+S造+木造、3階建
- 用途：体育館(バスケットコート2面)
子育て支援施設、店舗等
- 設計監理：ジェイアール東日本建築設計事務所
環境デザイン研究所



2 スケジュール

- 2018年夏ごろ 着工
- 2019年冬 完成予定

■本計画の位置づけ



○ノーザンステーションゲート秋田

次の20年の秋田を活性化するため、秋田県、秋田市、JRが中心となり、地域と連携しながら推進する中心市街地を核とするまちづくりの取組の総称

○中心市街地活性化計画

秋田市中心市街地活性化基本計画による市街地活性化の各種取組み

○秋田版CCRC

「生涯活躍のまち」に向けた秋田版の官民連携の取組み。秋田駅周辺では東口と西口が既存施設と一体となり秋田版CCRCを形成していく

○東口プラチナタウン

秋田銀行が中心となり立ち上げた「秋田プラチナタウン研究会」の一環として計画を進めている、秋田駅東口での健康・スポーツのまちづくりで、秋田版CCRCの一部を担っていく

※2015年9月に秋田県・秋田市・JR東日本の3者で「地方創生に向けたコンパクトなまちづくりに関する連携協定」を締結し、これらの計画推進につながりました

(参考)

■JR東日本秋田バスケットボール部ペッカーズについて

1947年創部。バスケットボール界最高峰の全日本総合バスケットボール選手権大会に7年連続9回出場。2004年から地域の子どもたちを対象にクリニックを実施し、参加者は延べ6,300名超。実業団トップクラスを目指し、地域の皆さまに愛されるチームづくりを行っています。

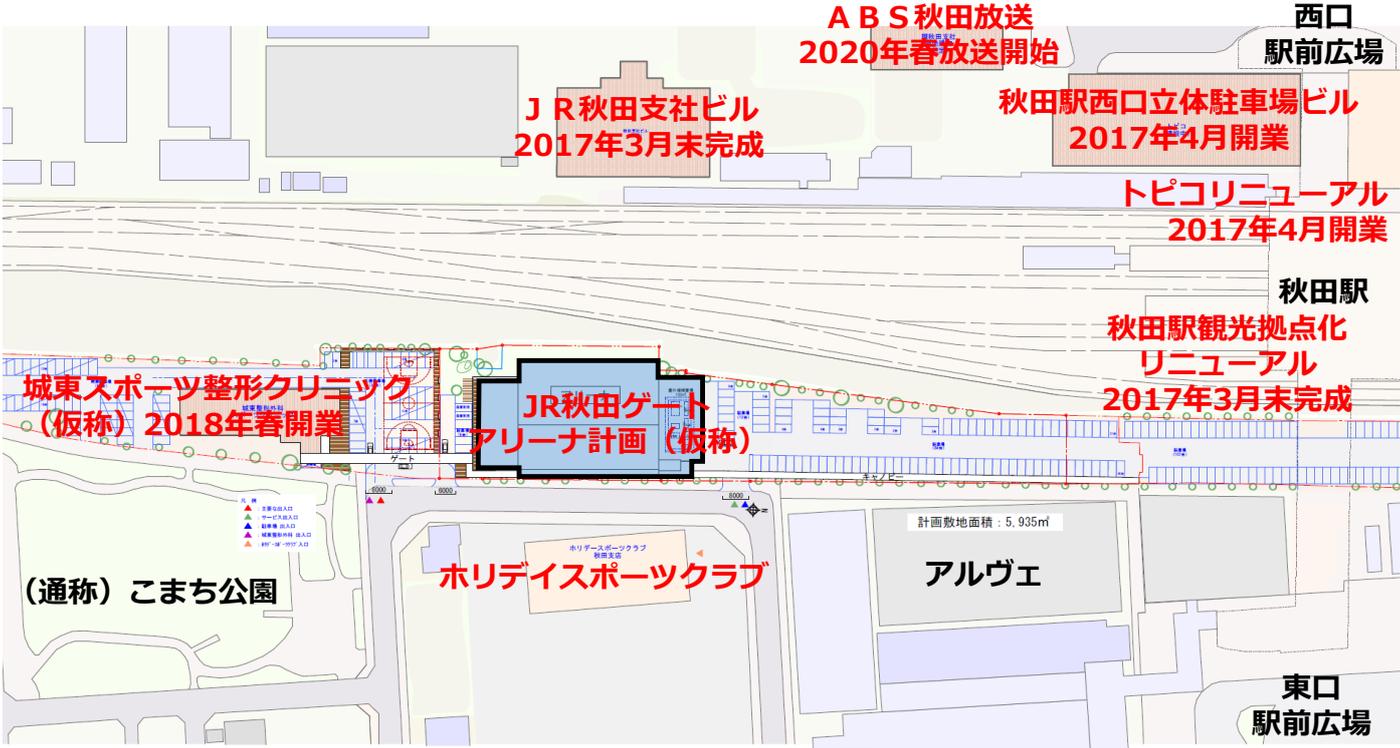


■秋田ノーザンハピネットについて

秋田初のプロチームとして2009年からBJリーグに参入。2013-2014シーズンから3年連続ファイナルズ進出を果たす。昨年から新たに発足したBリーグに参入。バスケスクールやチアダンススクール等を実施し、子どもたちのスポーツ育成にも取り組んでいます。



<周辺計画図>



<秋田駅東口プラチナタウン 鳥瞰イメージ>



※現在計画中であり、今後変更する場合があります。

<イメージ>



体育館イメージ



秋田新幹線こまちからの眺め



大会時の活用イメージ（1面利用）



東側イメージ

※現在計画中であり、今後変更する場合があります。